平成 25 年 3 月 21 日

各　位

会社名　　荒川化学工業株式会社
本社所在地　大阪市中央区平野町 1 丁目 3 番 7 号
代表者名　　取締役社長　　末村　長弘
（コード番号 4968 東証第一部、大証第一部）
問合せ先　　常務取締役経営企画室長　　宇根　高司
ＴＥＬ(06)6209-8500(代表)

第３次中期経営計画（２０１３～２０１５年度）について

荒川化学工業は、現在当社が置かれた厳しい環境を正しく認識し、永続的な企業価値の向上を目指し、中長期的な方向性、指針、価値基準を明確なものとするため、第３次中期経営計画を策定しましたのでお知らせいたします。

１．計画の名称

第３次中期経営計画（以下、第３次中計と呼ぶ）

２．計画期間

２０１３年度（平成２６年３月期）　～　２０１５年度（平成２８年３月期）　（３ヵ年）

３．第２次中期５ヵ年経営計画（２００８～２０１２年度）の振り返り

第２次中期５ヵ年経営計画（以下、第２次中計と呼ぶ）では、荒川化学グループが創業１４０周年（２０１６年）に向かってさらなる発展を実現するため、**「PINE DASH 1000」**のキャッチフレーズのもと、基本方針として４項目を掲げ、全社一丸となって取り組んでまいりました。

第２次中計期間中は、円高や東日本大震災により想定以上に日本市場がシュリンクし、電子材料分野におけるマーケット構造の激変も起こりました。これらの環境変化への対応が遅れ、計数目標の達成はできませんでした。一方で、大型設備投資やグローバル化への対応を実施し、将来の当社グループを支える事業基盤を整えることができました。

金額：百万円

	２００７年度（実績）	２０１０年度（実績）	２０１２年度（予想）	**２０１２年度（目標）**
	金額	金額	金額	**金額**
売上高	６６，１７１	６６，４５４	７０，５００	**８５，０００**
営業利益	３，０３１	２，７７７	２，１００	**５，２００**
経常利益	３，２２２	２，９７６	２，１００	**５，５００**
当期純利益	１，７７５	１，６１９	９５０	**３，３００**

４．経営理念とビジョン

当社の経営理念は、「個性を伸ばし　技術とサービスで　みんなの夢を実現する」であり、グローバルに事業展開を推進する荒川化学グループ全体で、共有すべきグループ経営理念として浸透を図ってまいります。さらに、ビジョンとして、「**つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER**」を掲げました。「**つなぐを化学する**」とは、当社の事業領域を表しており、当社の製品は材料の表面や隙間に存在し、機能を付与しています。私たちは、このような製品を通して、取引先はもとより、グループ社員、社会とのつながりを大切にする「**SPECIALITY CHEMICAL PARTNER**」を目指します。

５．第３次中計の目標とキャッチフレーズ

経営理念、ビジョンを踏まえ、第３次中計では、創業１４０周年（２０１６年）に向け、グループ経営理念を共有した社員が躍動するアジア企業を目指します。さらに、２０２０年には、アジアから真のグローバル企業へと、グローバルで戦える企業集団となることを目指します。

この目標をグループ一丸となって達成するため、
第３次中計のキャッチフレーズを、「**グローバル140**」としました。

経営理念

個性を伸ばし
技術とサービスで
みんなの夢を実現する

ビジョン

つなぐを化学する

SPECIALITY CHEMICAL PARTNER

第３次中計　キャッチフレーズ

グローバル140

６．経営方針

第３次中計では、基本方針として、グローバルで通用する経営基盤を構築することを目指し、次の４項目を掲げ、重点的に取り組みます。

１）グローバル化の加速

海外売上高２８０億円、海外売上高比率３５％を目指して、アジアを中心とした拠点戦略を一層展開させるとともに、グローバルブランドを育成する。

２）日本事業の再構築

グローバル市場の中での日本事業の位置付けを再認識し、収益を確保できる体制を構築する。

３）グローバルガバナンス体制の強化

グローバルで信用される企業となるため、グループガバナンス体制を強化するとともに、スピード感を持って実行できる体制を構築する。

４）事業開発の促進

「つなぐを化学する」をキーワードに全社横断の事業企画活動を強化する。

７．経営目標

ⅰ）連結業績　　金額：百万円

	２０１２年度（予想）	**２０１５年度（目標）**	
	金額	**金額**	**伸長率**
売上高	７０，５００	**８０，０００**	**＋１３．５％**
営業利益	２，１００	**４，０００**	**＋９０．５％**
経常利益	２，１００	**４，０００**	**＋９０．５％**
当期純利益	９５０	**２，４００**	**＋１５２．６％**

ⅱ）連結業績（セグメント別）　　金額：百万円

		２０１２年度（予想）	**２０１５年度（目標）**	
		金額	**金額**	**伸長率**
製紙用薬品	売上高	１８，２００	**１９，５００**	**＋７．１％**
	セグメント利益	１，０００	**１，３００**	**＋３０．０％**
	利益率	５．５％	**６．７％**	
化成品	売上高	３７，４００	**４０，９００**	**＋９．４％**
	セグメント利益	５００	**１，４００**	**＋１８０．０％**
	利益率	１．３％	**３．４％**	
電子材料	売上高	１４，６００	**１９，２００**	**＋３１．５％**
	セグメント利益	４５０	**１，２００**	**＋１６６．７％**
	利益率	３．１％	**６．３％**	
合計	売上高	７０，５００	**８０，０００**	**＋１３．５％**
	セグメント利益	１，９６０	**３，９１０**	**＋９９．５％**
	利益率	２．８％	**４．９％**	

８．事業計画

１）グローバル化の加速

製紙薬品事業と化成品事業は、アジアを中心に製造・販売拠点を整備するとともに、グローバルブランドの育成を進めます。電子材料事業では、電子製品の生産拠点となっている中国、台湾、韓国における販売を強化します。

＜製紙薬品事業＞

・中国華南地区での紙力増強剤の拡販と現地製造・販売拠点の整備
・ASEAN 地域での紙力増強剤、サイズ剤の市場開拓
・地域の特性に応じた製品グレードの開発推進

＜化成品事業＞

・水素化石油樹脂「アルコン」の増産体制の整備とグローバル販売体制の整備
・超淡色ロジン「パインクリスタル」を含めたロジン誘導体のグローバル販売体制の整備
・塗料・コーティング用樹脂の ASEAN 地域での市場開拓

＜電子材料事業＞

・光硬化型樹脂「ビームセット」の中国、台湾、韓国での実績化
・精密部品洗浄剤「パインアルファ」の中国、台湾、韓国での販売拡大
・ハイブリッドポリイミドフィルム「ポミラン」の実績化
・販社を中心とする現地営業体制の強化

２）日本事業の再構築

日本での市場シュリンクが見込まれる製紙・印刷分野では、事業戦略の見直し、生産拠点の再編を進め、コア事業として収益を確保できる体制を構築します。一方、第２次中計で生産能力を増強した光硬化型樹脂や超淡色ロジンなどの高付加価値商品については、日本を含めたグローバル市場での拡販を目指します。

・採算悪化事業の再構築
・生産拠点の統廃合
・光硬化型樹脂や超淡色ロジンなどの高付加価値商品の拡販

３）グローバルガバナンス体制の強化

グローバルで事業を拡大させるためには、全てのステークホルダーから信頼される企業となることが必須であり、増加する海外関係会社のガバナンス体制を強化します。また、ますます加速する環境変化に対応するため、経営資源をグローバルでスムーズに運用できる体制を構築します。

・グループ、組織体制の見直し
・会社設立・運営パッケージの構築
・グローバル人材の育成
・リスクマネジメントの強化

４）事業開発の促進

荒川化学グループの事業領域は、物の表面や隙間に存在することで機能を付与するという、「つなぐ」技術をベースにしています。この事業領域をさらに拡大させるため、「つなぐを化学する」をキーワードに、新規用途・新分野開拓のための開発を促進します。

・社長直轄による全社横断的な事業企画活動の強化
・高付加価値商品の用途開発とターゲットカンパニーの深耕
・電子材料分野に加え、ライフサイエンス・メディカル分野などでの新規探索

９．投資額

	第３次中計累計 (2013 年度～2015 年度)
投資金額 （３年間）	**約７５億円**

※別途、Ｍ＆Ａ枠として５０億円を想定し、機会を窺います。

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。